

「ふくい2030年の姿」における記載について

	ふくい2030年の姿（平成17年3月）	ふくい2030年の姿・II（平成21年3月）
東アジアの成長と福井県	<p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東アジアの経済発展 ・福井の東アジアにおける地理的優位性、産業・原子力での技術の優位性 	<p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジアの少子高齢化 ・福井独自の文化・技術を活かしたアジアとの友好関係の構築
	<p>【特徴的なデータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本と中国の貿易総額は2倍増 10兆円(1998年)→20兆円(2005年) ・福井県とアジアの貿易 輸出額917億円(57%:輸出額に占める割合)(2002年) 	<p>【特徴的なデータ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国でも今後5年以内に「人口ボーナス」の終点を迎える 日本:1990年～1995年 中国:2010年～2015年 ・アジアの高齢者は今後20年で2倍に 2億1437万人(2005年)→4億1207万人(2025年)
	<p>【2030年のふくい】</p> <p>○原子力産業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井がアジアの原子力産業をリード <p>○農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井は地球温暖化に対応したふくいブランド米を開発するなど、東アジア諸国の人口を支える研究開発・生産拠点 <p>○福井でつながる東アジア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的優位性と経済発展の経験、知識を活かして、経済や人材、文化の交流を通じて東アジア諸国やロシアなどの日本海沿岸地域の発展を支援 ・人脈を通じた販路開拓や観光客誘致などにより、東アジア諸国やロシアと取り引きを行う企業を育成 ・企業の研究開発部門で東アジア諸国と分業を進め、人材交流を活発化 ・外国人労働者は、東アジア諸国の現地法人・工場で採用するなど国外を中心に活用 ・県内企業に中国やインドの研究者が就業 <p>○東アジアの玄関口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線や高速道路網の整備により福井港、敦賀港、小松空港を活用して観光や経済、人材の交流を活発化 <p>○健康長寿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然やおいしい水、温泉、健康食材、医療機関など「健康長寿」の資源をクラスター化し、新しい観光産業創出や福井型健康の食の東アジア諸国への販売 	<p>【2030年のふくい】</p> <p>○世界との共創・共働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井の少子高齢化社会のシステムをアジア各国に提供し、アジアの少子高齢化対策に貢献 ・福井は関西・中京・北信越圏からアジア・ロシアにつながるゲートウェイとして港湾・交通体系を整備 ・アジア型標準化原子炉の開発など、福井発のエネルギー技術がアジアに普及 ・福井で原子力のメンテナンス等を学んだアジアの研修生が世界各地で「福育人」として活躍 <p style="text-align: center;">※「福育人」:福井で学び育ち、福井を身近に感じ、福井とつながりを持った人</p> <p>○福井文化の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井のこだわりや感性を活かした商品やサービスを高齢化が進む東アジア市場に提供 <p>○福井の技術による世界貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子力、新エネルギーなどの特色のある分野の研究者を世界から集め、アジアに貢献する技術開発・教育を実施 ・福井の稲作技術がアジアで応用され、食料問題、環境問題を解決 <p>○技術・システムの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯型自動翻訳機の普及により、アジア各国で親しまれる福井の文化